

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	周 艶芳
学位授与の要件	学位規則第4条第1項・2項該当		
論 文 題 目			
A Study on Children's Media Use and School Adjustment During the Transition from Preschool to Primary School in China			
論文審査担当者			
主 査	教授	七木田 敦	
審査委員	教授	丸山 恭司	
審査委員	教授	山田 浩之	
審査委員	准教授	中坪 史典	
審査委員	准教授	三輪 千明（大学院国際協力研究科）	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は中国における5－6歳の幼児児童172人（男児84人、女児88人）のメディア使用と学校適応の多面的な関係を検討し、幼小接続期における子どものメディア使用とそれが学校適応に関する影響について明らかにすることである。研究の対象になった幼児児童が、テレビ、携帯電話、コンピューターなどの子どもや家族向けのメディア使用に関するのに費やした時間や、メディアの内容と種類に基づいて研究を行った。その結果、幼児児童がメディアに費やす総時間が、学校の適応の予測要因であることが明らかにされた。またとりわけ未就学幼児のメディア使用に費やす時間が、学校の適応を予測する上で重要な役割を果たすことが明らかにされた。幼児児童が視聴するメディアコンテンツは、様々な程度で学校の適応性に関連していた。加えて本研究では子どもがさまざまなメディアを利用する5つの要因について調査した。最後に今後の研究の方向性についての展望を述べた。</p> <p>論文は全7章で構成されている。第1章において問題の所在と本研究の目的および必要性と妥当性を述べた。メディア、子どものメディア使用、学校適応性専門用語の定義を行った。</p> <p>第2章では、学校適性に関する文献の検討を行った。学校適応の定義、測定尺度、異なる年齢段階の学校適応の現状と学校の適応性に影響を与える要因によって検証を行った。</p> <p>第3章では、就学前教育から小学校の移行に際し、中国における歴史的背景と現状を述べ、中国の国内外のメディア接触の研究や幼小接続期問題に対する様々な観点について研究成果と課題について明らかにした。</p> <p>第4章では、メディアの定義、幼児児童のメディアの使用の歴史的起源、メディアの使用と学校の適応との関係についての研究について検証した。この章では、様々なメディアが子どもに与える影響について述べ、幼小接続期におけるメディアの使用と学校の適応の</p>			

関係を研究するための倫理的枠組みについて示した。

第5章では、幼小接続期における幼児児童のメディア使用と学校適応の実証的研究を行った。研究の目的、理論的枠組み、研究方法、研究仮説を提示し、データ収集プロセスとデータ分析を実施した。

第6章では、第5章の実証的研究に基づいた半構造化されたインタビューにより、コンテンツ分析のアプローチを用いて、幼児児童のメディアの使用の異なる動機を調査し、幼小接続期におけるメディアの使用の背景にある5つの要因について明らかにした。

以上を踏まえ終章では、総括的な考察を行い、本研究の意義を述べた。ここでは中国における幼小接続期の課題に対して、生態学視点から子どものメディア生態環境、学校、周辺環境と地域社会資源などの相互関係における効果的な学校への移行と適応を促進するための提案と将来の教育分野における展望を示した。

本論文は以下の点で高く評価できる。

第1に、中国における幼小接続期の幼児児童のメディア使用と学校適応の研究からメディア利用の生態学的環境の下で児童が学校活動や学習を行うための予備知識を提供している点である。

第2に、中国における幼小接続期の幼児児童のメディア使用と学校適応の関係の実証的な根拠を提供し、スムーズな就学移行と学校適応に何が必要かを提案したことである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 3 年 2 月 9 日